

会 議 録

会議名称	平成28年度 紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
開催日時	平成29年2月9日(木) 15:58 ~ 17:30
開催場所	紀の川市役所本庁 南別館3階 応接室
出席者	<p>【委員】 (順不同) 仁藤会長、野村副会長、山中委員、大畑委員、金子委員、木村委員 中村委員、山田委員(欠席者なし)</p> <p>【事務局】 林副市長、森本企画部長、神徳企画部次長 (企画調整課)角企画調整課長、野口課長補佐、上野係長、楠部</p>
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会長・副会長の選任について 2. 地方創生先行型交付金の効果検証について(効果検証、評価) 3. 平成27年度紀の川市総合戦略進捗状況について(報告及び効果検証) 4. 地方創生加速化交付金事業について(報告) 5. 地方創生推進交付金の申請内容について(報告)
会議要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・会長に仁藤委員、副会長に野村委員を選任 ・平成27年度実施の「地方創生先行型交付金事業」について、事務局より説明し質疑応答、効果検証及び評価を行った。最終の評価においては仁藤会長と調整を行うことと決定。 ・平成27年度紀の川市総合戦略に掲載されている数値目標及びKPI(重要業績評価指標)の進捗状況を報告し、質疑応答を行った。 ・平成28年度実施の地方創生加速化交付金事業(3事業)の事業内容報告を行った。 ・平成29年度の地方創生推進交付金に申請予定である2事業の内容報告を行った。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記載内容等確認の方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
その他の特記事項	

次第1.【開会】

司会：企画調整課長 角

定刻より少し早いのですが皆さまお揃いですので、ただいまから紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を開催させていただきます。私、事務局企画調整課の角です。よろしくお願いいたします。

本日お集まりいただきました紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会は、審議会設置要綱第1条において、「まち・ひと・しごと創生法に基づき、紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略を総合的かつ計画的に推進するために設置されておりますので、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

本日の会議資料につきまして、確認をお願いいたします。次第、資料1：紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員名簿、資料2：審議会設置要綱、議案といたしまして議案（1）から（4）、新聞のコピー、ピーチ航空の広報誌、サイクリングマップなどあり、のちほど事業説明の際に一緒に説明したいと考えております

次第2【委嘱状交付】

司会：企画調整課長 角

それではこれより次第に沿って進めさせていただきます。まず会議に先立ち、審議会委員の委嘱状を交付させていただきます。

本来であれば、市長から皆さまへ委嘱状を交付させていただくところではありますが、市長がトップセールスのため出張しておりますので申し訳ございませんが、林副市長より委嘱状を交付させていただきます。お名前をお呼びいたしますので、恐れ入りますがその場にご起立いただきますようお願いいたします。

～各委員に委嘱状交付（省略）～

（委嘱状交付終了後）

続きまして、林副市長からごあいさつを申し上げます。

次第3【あいさつ】

副市長 林

みなさんこんにちは。紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会の開催にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

本日は、皆さま大変お忙しい中、ご出席いただきましたこと、心から感謝を申し上げる次第でございます。また皆さま方におかれましては、この度の委員就任につきましてご承諾を賜りましたこと心より厚くお礼申し上げます。

昨年度策定しました紀の川市総合戦略は、人口減少の抑制と地域の活性化を図るために必要な施策や取組みをとりまとめた戦略となっています。

現在、総合戦略の目標達成に向けた事業を実施しているところですが、今年度から毎年、総合戦略や国の交付金事業の効果検証を行うとともに、総合戦略自体の見直しを図る必要があります。この効果検証や見直しは、皆さま方からのご助言をいただきながら進めてまいりたいと考えております。

今後も地方創生に向けた効果的な事業を展開して安全・安心で、紀の川市に住みたい、住んでよかったとっていただけるようなまちづくりを進めてまいりたいと考えてございます。

今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます、あいさつにかえさせていただきます。どうかよろしくようお願い申し上げます。

次第4【委員紹介】

司会：企画調整課長 角

それではあらためまして、本日ここにお集まりの皆さまのご紹介をさせていただきます。

～各委員紹介（省略）～

～事務局紹介（省略）～

次第5【紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会設置要綱の一部改正について】

司会：企画調整課長 角

それでは次に、紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会設置要綱の一部改正についてご説明いたします。資料2をご覧ください。

改正箇所は2箇所、赤字で記載しております。第2条の第1項、総合戦略の策定及び改訂に関する部分でございます。今回、総合戦略は毎年の効果検証により必要に応じて改訂していくため今回改正させていただいております。

第4条では任期を2年以内として年度途中での委嘱を踏まえて短縮させていただいております。

以上で、要綱改正についてのご説明を終わります。

次第6【会長・副会長の選任について】

司会：企画調整課長 角

それでは続きまして次第6 会長・副会長の選任にうつらせていただきます。

会長・副会長の選任については審議会設置要綱第5条の規定において、委員の互選により会長と副会長各1人を選任することとなっておりますがいかがいたしましょうか？

大畑委員

那賀振興局の大畑です。初めての会議で各委員さんも戸惑われると思いますので、事務局の案はあるのでしょうか？

司会：企画調整課長 角

はい、事務局の案は持っております。披露させていただいてよろしいでしょうか？

（各委員異議なし）

それでは、事務局案ということで発表させていただきます。会長に、仁藤伸昌委員、副会長に、野村壮吾委員を推薦させていただきます。皆さまいかがでしょうか？

（拍手全員で承認される）

それでは会長、席の移動をお願いいたします。

司会：企画調整課長 角

それでは、会長と副会長から一言いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

会長：仁藤会長

改めましてこんにちは。大変僭越ではありますが、またこの会長を務めさせていただきます。

先程、副市長さんからのお話にありましたように、評価するだけではなくて次の段階に進めたいというように十分な配慮の上、評価いただきたいと思います。

是非、効率のよい会議となりますよう皆さまのご協力をお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

副会長：野村委員

改めまして、野村と申します。副会長ということで、微力ですがお役に立てるように頑張りますのでよろしくお願いいたします。

司会：企画調整課長 角

ありがとうございました。それでは審議会設置要綱第6条第1項の規定により、これより、進行を会長にお願いいたします。仁藤会長、よろしくお願いいたします。

仁藤会長

よろしくお願いいたします。

まず議案に入ります前に、本審議会は審議会設置要綱第6条第2項において会議を公開すると規定されております。市のホームページで議事録を公開するため、会議の際は写真撮影と録音をさせていただきます。ご了承賜りますようお願い申し上げます。なお、委員の皆さまには議事録をお送りしますので、数日かかると思いますがお手元に届きましたらご確認いただきますようお願い申し上げます。

それでは次第に沿って進めてまいります。今日の議題はその他を含めて5つの議案を提案させていただきます。

次第7【議案】

(1) 地方創生先行型交付金の効果検証について

仁藤会長

まず(1) 地方創生先行型交付金の効果検証について事務局から説明いただきます。

事務局：企画調整課 楠部

事務局の楠部です。よろしくお願いいたします。先般から委員の皆さまに資料をお配りしていますが、議案1と議案4について差し替えをさせていただきます。本日、お手元にお配りしております資料をご覧くださいようお願いいたします。

それでは、議案(1)をご覧くださいと、国の平成26年度地域活性化・地域住民生活支援交付金で、これにはタイプが2つありまして、地方創生先行型で5事業、地域消費喚起型

で、商工会商品券の補助事業を行っております。これらの27年度中に実施した事業について、28年度中の効果検証が必要であるため、本日皆さまにご検証いただくものです。

1枚おめくり下さい。地方版総合戦略等策定事業としまして昨年度、審議会の皆さまにご尽力いただきました「人口ビジョンと総合戦略」の策定事業です。総合戦略を地域の実情に応じたものとするため、人口等の調査分析を外部に委託して実施しております。

また、転入転出、就労や結婚等のアンケートを実施、さらに子育て世代や商工会の青年部の方にヒアリングを実施し、若い世代のニーズを把握して総合戦略に反映させたものです。

また審議会の運営につきましては、人口ビジョンと総合戦略の策定のために、計5回開催しております。

2ページをご覧ください。本来、この効果検証においてはKPIや実績に基づいて検証いただきますが、総合戦略は計画の策定ということでKPIの設定は行っておりません。

事業効果としては、人口減少や少子高齢化、地域の活性化について庁内外で意見交換を行ったことで、市の課題の把握や目指すべき将来の方向性について意識の共有を図れたため、地方創生に効果があったものと考えております。

外部評価につきましては、当審議会で策定したものであることから評価なしとしております。

また、今後の方針の欄ですが、事務局で案を記載しておりまして、この案を基にご審議いただきたいと考えております。事務局の案として「毎年効果検証を行い、必要に応じて総合戦略の改訂を行っていく」ということにさせていただきました。説明は以上です。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

仁藤会長

今の説明を受け、ご意見等いかがでしょうか？

赤字で記載されているところは進めていっていただくということでよろしいでしょうか？

(異議なし)

では案のとおりとして次をお願いします。

事務局：企画調整課 楠部

続きまして3ページをご覧ください。婚活支援事業になります。婚活支援事業自体は以前より出会いの場を提供するというので実施しておりますが、更に多くの方が結婚につながるように今回、個別相談会や個人の魅力アップを図るための婚活セミナーを開催しております。

活動状況につきましては、男女別セミナーと個別の婚活相談会を開催し、結婚に対する不安を解消し、結婚につながるようによりきめ細かな支援を行ったものです。このセミナーは2回実施し、合計で19名の方にご参加いただきました。男性が8名、女性が11名、全員が市内の方となっております。

下段の②をご覧ください。こちらは男女交流型セミナーで、男女混合のグループに分かれ、ワークショップを行うなど交流を図り、セミナーの終了後に婚活イベントも開催しております。こちらも2回開催しており、合計57名の方にご参加いただきました。

4ページをご覧ください。この事業では、3項目のKPIを設定しております。

婚活イベントのカップル成立率は目標50%を目標としておりましたが、実績は30%にと

どまっています。

婚活相談会は、目標15名に対し、19名の参加がありましたので、達成としています。

セミナー参加人数150名の目標に対し、実績は57名で未達成となっております。

この事業の評価としましては、カップル成立率は目標の達成には至っておりませんが、セミナー参加者の個人の魅力アップを図るとともに、結婚に対する意識の向上を図れたことから、地方創生に効果があったものと考えております。

次に、外部評価の事務局（案）ですが、赤字で記載しておりまして、「男女交流型セミナーとその後開催された婚活イベントには女性の参加者が少なく、カップル成立の可能性を引き下げてしまっている。」などを挙げさせていただいております。

また、今後の方針では、「参加者は直接的な出会いを求めているため、セミナーのみの開催は廃止する。」等を挙げております。事務局案はあくまでもたたき台として、いろいろなご意見を頂戴できればと考えております。

説明は以上です。ご検証のほどよろしくお願いいたします。

仁藤会長

ありがとうございます。いかがでしょうか？

評価が「やや不良」、もうちょっと検討しなければならないという評価になっております。

金子委員

このイベントは市内の方に限って行っているのか、それとも市外の方も対象として行われたものなのかと、実際に参加された方の市内外の割合を教えてください。

また今後、別の項目とも絡んでくるのですが、市内でのカップル成立となると、(人口増加等)非常にハードルも高いし、達成も難しいと思われるため、女性の方は市外の方も大歓迎として多く呼び込んで、大阪南部の方にも紀の川市に住んでもらうというような形にもっていく。要するに来年の方針としては、もう少し広域に募集をするという方向性がないのかという2点をお尋ねします。

事務局：企画調整課 楠部

対象者につきましては、市内在住・在勤、また将来的に紀の川市に住む意思のある方も対象となっております。男女交流型セミナーの9月12日については、男性18名のうち、市内が15名で市外が3名、女性の8名のうち、市内が3名、市外が5名です。

次に2月6日分ですが、男性18名のうち、市内14名、市外が4名です。また女性13名のうち、市内は8名、市外が5名となっております。

金子委員

そうすると一定量の市外の方も参加されているということで、今後の方針というところにもなるのですが、イベントを商工会に委託と書いてありますが、商工会はどちらかと言うと市内に強い組織なのかなと。ただ、一部の商工会では大阪とか別のまちの商工会との連携もあるでしょうから、そういったところに期待すれば、よそのまちから来てもらえる可能性がひとつ出

てくるのと、それから基本目標の他のところとの関連になってくるのですが、移住定住の絡みも考えれば、大阪のシティドーム大阪ですね、「ふるさと紹介センター」という、いろんなまちの紹介をするところがあって、和歌山県の橋本市出身の方がいらっしゃいますから、そういうところにも声をかけて、なるべく紀の川市内で商売とか農業をやっている方と、市外の方にきてもらうように拡大するようなプロモーションを考えていくといいのかなという意見ですが、次年度に向けては、こういった市外に目を向けて、内部の方と外部の方というような切り口でおやりになるとこの辺の達成率は上がってくるのかなと思いますし、シティプロモーション、シティセールスにもつながってくると思いますのでこれ単体として考えずに、全体のプロモーション、セールスで考えていく中で続けていくのがよろしいのではないかと思います。

仁藤会長

貴重なご意見ありがとうございました。評価のところに反映するようにいたします。

では、次に進んでよろしいでしょうか？

(異議なし)

では次、お願いします。

事務局：企画調整課 楠部

続きまして5ページをご覧ください。観光プロモーション強化事業となります。この事業の中では大きく分けて2つの事業を行っています。中段の活動状況をご覧くださいますと、

①情報発信機能の強化としまして、市観光協会のホームページを充実し、SNSを活用した情報発信の強化を図っております。

この効果としたしまして、平成26年度のホームページのアクセス数が、月平均75件からリニューアル後は、月平均160件と倍増しております。これによって情報発信機能の強化は図れたものと考えております。

下段の②プロモーション活動と観光PRカーの製作では、市観光協会に補助金を支出、市と観光協会が連携して都市圏で開催されたイベントに出展してPRを行っております。中段に車の写真がありますが、こちらが今回制作した観光PRカーで、イベントにはこの車で参加しており、かなり派手で目立ちますので道中でも、紀の川市がフルーツのまちであるというアピールができていますものと思われまます。

次に6ページをご覧ください。

この事業に対する目標値は、観光入込客数で190万人としておりましたが、実績は185万人となっています。参考ですが、前年の26年の実績は188万人で、実績同士を比較すると、3万人の減少となっております。これを地区別に調べたところ、粉河地区と桃山地区で減少しておりました。京奈和自動車道が延伸したことによって観光客の導線から粉河地区が外れてしまった可能性があるということです。

また、桃山地区については桃の花の咲く時期や桃が出荷されている時期は増えていますが、それ以外の時期に減っていますので、そのあたりについては今後詳細な分析が必要であると考えております。

以上、ご検証よろしくお願いいいたします。

仁藤会長

ありがとうございました。どうぞご意見をお願いいたします。

金子委員

粉河と桃山で減っているということですが、那賀地区はどうでしょうか？青洲の里が道の駅になったのでその効果と、あるいは、そこを活かしていけば、京奈和自動車道は全線無料化の路線なので一回下りていただいて、青洲の里、それから粉河といった動線を作って、また京奈和に乗るようなルートができればいいのかなと思ったものですから。那賀の道の駅の関係はどうでしょうか？

事務局：企画調整課 楠部

粉河地区と桃山地区がそれぞれ2万人以上減っている状態です。那賀地区は4千人程度減少しています。ただ、打田と貴志川地区は増えております。

事務局：企画部長 森本

道の駅になったのが平成28年で、資料が1年前のものとなるので、事務局から説明した動向には反映していない。今後、減っているかどうか検証が必要となります。

金子委員

いずれにしても青洲の里を道の駅になったので、どこかで資料を求められるということを考えて、それと粉河をくっつけると何かいいものが作れるんじゃないかと思います。

仁藤会長

他にはいかがでしょうか？

中村委員

二つ質問方々、意見というかお願いしたいのですが、1個1個のテーマごとに検証しているのはいいのですが、それを検証するときの前提として、副市長さんが最初におっしゃった人口減少と地域活性化をどうすべきかというのが、ここの根本的なテーマであって、これは日本の全国的な傾向であり、それだけに果敢に取り組むべき課題であると思います。そういう意味で紀の川市は全国や県内と比べて、人口減少や他の課題が深刻なのか、それともまあまあいいのか、そこら辺りのお話をお聞きしたいのが1点。

次に、観光プロモーションの話ですが、実は昨日、白浜で和歌山県議会の観光振興議員連盟主催で「大使観光フォーラム」というのが開催されました。二日目の今日は20カ国の大使や総領事が、高野山に行って終了するというものですが、知事もフォーラムのあいさつでおっしゃっていたのですが、各国の大使がこんなに和歌山に来てくれて会議をするなんてことは初めてのことで、そういう意味で大変素晴らしいことであると同時に、主催したのが県当局ではなくて、もちろん県も協力していますが、議会でやったことを高く評価されていました。

狙いとしては、インバウンド向けにいろんなプロモーションをしてるけども、大使を呼んで和歌山の良さを知ってもらうのが手っ取り早いんじゃないかと、僕なりに解釈するとそういうことだと思うんですね。つまり県議会も自分達が政務調査費で、従来であれば観光地の視察程度にとどめていたのが発想を転換して、今回「大使フォーラム」をやってはどうかとのアイデアが出たみたいです。僕は知事じゃないですけど知事が評価したみたいに、素晴らしいことだと思ってる訳です。つまり何が言いたいかというと多分1個目の質問とも関連するのですが、深刻であれば、従来の積み重ね方式というよりも発想を転換してやっていかなくてはならないんじゃないかという感じもします。今、観光プロモーションのテーマだからたまたま昨日取材していたので感じたことを言わせていただいたのですが、もし1番目の質問で、紀の川市の現状を教えていただけたら今後意見を言うときの参考にもなるかと思うので教えていただければと思います。

仁藤会長

ありがとうございます。では事務局お願いします。

事務局：企画調整課 楠部

人口減少ということで申し上げますと、後ほどもご報告しますがかなり減っている状況で、深刻な問題であると市としても捉えているところです。

これは27年度で実施した事業ですが、総合戦略も27年度に同時進行で策定させていただいていると。皆さまからご助言いただいたものを反映した総合戦略を作って、実際は28年度からそれを反映した事業を展開しているということでありますので、その危機的な状況を何とか28年度以降の事業を展開していく。そこに対してまた皆さまからご指導なり、ご意見をいただいてそれを反映した事業を展開していきたいということで考えております。

中村委員

結論的には、相当、やっぱり発想の転換を含めた思い切った策が必要なんですね。

仁藤会長

ありがとうございました。金太郎鮎的にならないようにというご指摘だと思うんですけども。よろしくご検討ください。

中村委員

大使観光フォーラムのことをいいましたが従来と比べたら発想が完全に飛び越えてるんですよ。やっぱりそういうのが必要なのかなと感じがしますね。今なんか言えよって言われてもいえないですけど。

仁藤会長

他どうですか？

無いようなので次進めてください。

事務局：企画調整課 楠部

続きまして7ページをご覧ください。保育所保育環境充実事業です。

近年ニーズの高まっている低年齢児のお子さんの受入体制の整備と保育環境の質の向上を図って子育て支援環境を充実させるという事業です。中段をご覧くださいますと活動状況のところで、老朽化した設備、トイレであるとかエアコンの改修や低年齢児用の机・イス、防災用品の購入、低年齢児用遊具の充実を図りました。これは公立保育所だけではなくて、下段ですが私立保育所にも運営補助を行い、保育環境の充実を図っていただいているところです。

8ページをご覧ください。この事業においては、0～2歳の低年齢児の受入数を増やしていきたいという目標とさせていただいております。目標値で540人、実績は491人で達成には至っていません。これは改修したことによって、現在いらっしゃる子供さんの保育の環境は充実していますが、定員を増やすには建物自体の広さ等、根本的な課題がありますので達成出来ていない状況です。評価としましては、概ね良好とさせていただいておりますが、意見の部分で環境は充実したが低年齢児の受入人数は増やせていない。建物の広さ等、根本的な課題がある。とさせていただいております。

今後の方針としましては、低年齢児の受入数を増やすために施設整備と民間への働きかけが必要なのではないかということにさせていただいております。

以上、ご検証の程よろしくお願いたします。

仁藤会長

ご意見いかがでしょうか？

老朽化を非常に強く言われていますが、紀の川市はひとつの公共施設を組織立って改築するとかそういうプログラムがありますよね？それとの兼ね合いはどうですか？これだと何かもっぱら古くなっちゃったというだけですが、そういうプログラムがあることで数的な目標だけじゃなくて質的な改善も図っていくというそういう前向きな形ってのはいかがなんでしょうか？

事務局：企画調整課 楠部

いま、会長がおっしゃっていたように公共施設マネジメントといいまして数ある公共施設の管理であるとか統合、再編を含めて検討しているところですが、保育所につきましても来年度以降で、例えば私立保育園の整備が予定されていたり、公立保育所と私立保育園との再編等を検討しているところです。

仁藤会長

待機児童についてはどうですか？子供さんに対する定員とか。

事務局：企画調整課長 角

今のところは発生していない状況です。

仁藤会長

そういうのはやっぱり強調すべきですね。よろしいでしょうか？では次お願いします。

事務局：企画調整課 楠部

続きまして9ページをご覧ください。こども医療費助成事業です。

これは中学校卒業までのこどもさんの医療費の自己負担分について助成し、保護者の経済的負担を軽減するもので、子育て支援策のさらなる充実を図ったものです。

10ページをご覧ください。上段の事業に対する目標値としては、年間転出者に占める子ども（0～15歳まで）の割合を10%以下にしたいと、つまりは子育て世帯の転出を抑制したいというものです。実績といたしましては11.7%と目標の達成には至っていない状況です。

この事業につきましては、紀の川市だけでなく周辺の自治体も実施しており、この事業をすることで転出抑制を図れるのではなく、しないことによって転出が増加してしまうと、そういった負の要因になり得るものであると考えております。この事業自体は継続して、他の子育て支援策と一体的にPRや情報発信を行い、紀の川市が子育てしやすいまちであるということアピールしていくことが重要であるということと考えております。

以上、ご検証の程よろしくお願いたします。

仁藤会長

どうぞご意見をお願いいたします。

（意見等なし）

そうしましたら次お願いします。

事務局：企画調整課 楠部

11ページをご覧ください。これは国から効果検証は求められておりませんので、報告だけになりますが、商工会が発行する商品券が従来であれば1割のプレミアム率であったのが、この交付金を活用したことにより3割に引き上げており、なおかつ発行枚数も増やせたものでございます。額面総額で5億7百万円で使用できるのが商工会の加盟店舗のみということで、この商品券を使って地域のお店のほうで5億円程度の消費がなされたということで地域経済への貢献は高いものと考えております。以上でございます。

仁藤会長

以上、先行型交付金の事業について説明いただきました。

全体を通してご意見いかがでしょうか？よろしいでしょうか？

私がこんな発言していいのかわかりませんが、例えば、観光プロモーションで予算の執行率が97.3%で、人数に対する到達率は96%位ってますよね。そうすると予算使った分とこの効果との関係はどうなんでしょう。結構いいのではないのかなと思うんですよね。概ね良好で評価していますけど。それと同じようなことが例えば保育所でも99.7%の予算執行してるわけですけど、実際540人に対し、491人ですからこれも90%くらいいってるわけで、そんな落ちる数値じゃないと思いますがどうなんでしょう。役所の考えとしては。

企画部長 森本

KPIに対しての達成率を考慮に入れた関係で良好ではなく、概ね良好としているのもひと

つの考えですが、先生がおっしゃってくれたように計画額に対しての執行率とその内容がいいのであれば良好でいいんじゃないかということで、事務局としてはそういう意見も踏まえて良好という形でもいいのではないかという考えもありますが、目標とした指標に対しての達成率というのと併せて考えます。

仁藤会長

そういう意見があったということで是非ご検討ください。

他にいかがでしょうか？

大畑委員

5ページの観光プロモーションが強化されて、SNSなどアクセス数が増えている一方で、観光客が27年度は減っているということですが、28年度の観光客数はその効果で増えているのでしょうか？

事務局：企画調整課 楠部

引用したデータは和歌山県観光客動態調査で、年度ではなく年くりになっています。

H27年の185万人も1/1～12/31の期間です。28年についてはまだ発表されておられませんので全体的な数値は分かりかねますが、和歌山電鐵貴志川線におけるツアー客数を見ていると減少している状況となっています。

大畑委員

PRでSNSを使っていると今後増えてくる予測があるのかなと思ったのですが。

仁藤会長

ありがとうございます。他にいかがですか？

(意見等なし)

そうしましたら評価につきましては、私の意見として一部、内部的に検討するということと、それから今日、ご発言いただいた内容も評価の中に反映するという方向で事務局と私にご一任いただけますでしょうか？

(異議なし)

ありがとうございます。

(2) 平成27年度紀の川市総合戦略進捗状況について

仁藤会長

次に、議題の2です。平成27年度紀の川市総合戦略進捗状況についてです。

事務局からお願いします。

事務局：企画調整課 楠部

時間の都合上、主だったものをご照会させていただきます。

まず1ページの上段、「社会増加数」です。これは転入と転出を比べ、転入者の方が多い状態を社会増加といいます。基準値は、△176人で転出者の方が176人多かった状況です。

これを減らしたいのですが、実績は△376と増加しております。先程中村委員からご質問がありました人口減少について、危機的状況であるとお答えしたのがこの部分です。

中段の基本的方向2「近畿大学生物理工学部との連携」で「連携による新規プロジェクト数」0件となっておりますが、備考欄にもありますとおり、平成28年度で交付金を活用した連携事業を行っており、後ほどご説明したいと思います。

2ページをご覧ください。上段の農家数は27年度末が「-」となっておりますが4,028戸となりますので追記お願いいたします。基準値が26年度で4,027戸、目標値が31年度末で3,620戸ということで、減少の抑制を図りたいという目標にしていますが、27年度末で4,028戸と現状の確保はできている状態であるため、農家さんへの支援策等、今後更なる充実させ、なるべくこの数値をキープできるようにしたいと考えております。

次に、市内高校新卒者の地元就職率ですが、26年度で13.7%であったのが27年度では、粉河高校と貴志川高校にお伺いしたところ、18.1%の生徒さんが地元企業に就職されているということです。

次に3ページをご覧ください。上段の合計特殊出生率については、当市だけでなく、全国的に2.07に近づけたいという重要な指標ですが、国から算定の基となる数値が公表されていないため実績値は把握できておりません。

下の欄においてもアンケート結果を基準値や目標値に据えている項目がありますが、定期的にアンケートを実施していないため、現状値が把握できていない状態です。

次に4ページをご覧ください。上段の2つ目、住民基本台帳人口です。

平成26年度の65,759人から平成27年度で65,008人と約750人も減少している状況です。

一番下の公共交通利用者数ですが、26年度の240万9千人に対し、246万4千人まで増加しております。これは、和歌山電鐵貴志川線において、インバウンドのツアーが多かったことと国体の影響等もあるかと思われます。

あと、KPIの設定は行っておりませんが、総合戦略にも掲載しておりますし、市長3期目の政策目標でもあります「京奈和関空連絡道路の整備」について、ご報告させていただきます。

平成27年7月12日に近隣7市8町の首長、議会議長の賛同を得て、京奈和関空連絡道路建設促進期成同盟会を設立しております。同年11月26日には、こちらのホール田園において、「京奈和関空連絡道路の集い in 紀の川市」が開催されております。

今後は期成同盟会の他の構成団体と、より一層の連携と協力を図りながら早期の実現を目指すものでございます。

かなり端折った説明で申し訳ございませんが説明は以上となります。

仁藤会長

今の進捗状況などについてご意見をお願いします。

中村委員

先程の質問で人口に対する認識は相当厳しいということですが、今の説明の農林業センサスデータで、27年度末で1人だけ増えているところや、その下の魅力ある農業のところの認定農業者数の325人から333人、これを増えているとみるのか、横ばいとみるのか、その表現はいろいろあると思いますが、少なくとも農林業センサスでは5年後の31年は3600人とかなり減るとみているにも関わらず、こういう状況となっているのは、その原因はどこにあってどうみたらいいのか、結構頑張っているとみたらいいのか、それは甘いと見るのか、そこから辺りの認識を教えてください。

事務局 企画調整課 楠部

新規就農者への支援や農業大学校との連携などさせていただいている状況もございまして、新規で就農される方、また後継者の方に紀の川市で農業をしていただきたいという施策も展開しておりますので、そこらの影響で下げ止りになっていけばいいとは考えております。

認定農業者数も年々増やしたいと考えておりますので、上がり幅は少ないですが着実に増やせてはいけているものと考えております。

中村委員

全体としての人口は厳しい状況だけれども、一番中心的な産業である農業については、まあどういう言葉、「健闘」というのがいいのか、そんな感じでもよろしいでしょうか？

事務局：企画調整課課長補佐 野口

原課と話をする中では、農家数は横ばいですが、それはただ単に「農家数」だけであって、その農家さんが「耕作をする」ということはまた別の話になってきます。そこで現場とのずれが生じてしまっていると思われれます。耕作放棄地が増えているというのは、そのあたりが原因です。農家さんですが、農業をしていない農家さんもいらっしゃいますので、そういうこととの数字の乖離もでてくるかと思しますので、農家もやはり厳しい状況であるかとは思っています。

副市長 林

今、農業のことについて話がでておりますが、正直申しまして、紀の川市の基幹産業が農業ということの中から私はこの5年間で非常に重要で勝負の年ではないかなと思っています。というのは、今、専業農家でされている方の年齢層から見て、あと5年経ったらどちらに転ぶかっていうことなんですね。ですから常に担当の農林商工部とも話しをしているのですが、例えば国が提唱している「耕作放棄地対策」とかそういうことは私はどちらかといえば関係ないと思うんですね。農家が「儲かる農業」ができれば耕作放棄地は自然となくなっていくんですよ。ですから市長ももちろんそうなのですが、紀の川市としては山中委員もご出席いただいておりますけどもJAさんと本当に連携を密にしてここ数年で本当に力を入れて、一年でも早く力を入れてやっていかないと大変なことになるんじゃないかこのように考えております。

仁藤会長

ありがとうございます。どうでしょうか農業現場に一番強い山中委員としては？

山中委員

副市長がおっしゃったとおりだと思います。結局、農業者の方にもっとお金をとっていただかなくては駄目だと思います。魅力ある農業として、実際産業として十分生活できるような形を作ってきたということでは力をいれているところなんですけど、行政にご協力いただきながら連携して進めていきたいと考えています。

仁藤会長

ありがとうございます。他よろしいでしょうか？

山田委員

そのことに関連することなのですが、副市長さんがおっしゃるとおり農業に従事している方はどんどん高齢化してきているというのは事実だと思います。私たちも実感しているところですが、それが行き着いてしまうと農業が成り立たなくなってしまうと思いますので、他の先進県でよく言われている、農業地の集約化、いわゆる「集落営農組織」みたいなものは紀の川市ではどういう状況でしょうか？そういう組織は活発に組織化されているんでしょうか？

事務局：企画調整課長 角

おそらくそこまでの組織はないと思います。

山田委員

そこまでいってないってことは、それ程危機感がないってということかもしれませんが。

以前、視察に行った滋賀県なんかでしたら、大規模営農組織がどんどんできています。先程おっしゃっていたようにそこまで進んでいないなら非常にありがたいんですが、個々では中々農業は、特に山間地域なんかでは難しいと思いますので、そういう集落営農組織だとか、県の方でやっていただいているんですかね、耕作放棄地をみんな集めて、先程出てきた認定農業者や熱心に農業をしていただけるような方に貸して作っていただくというようなことも進められているんですけど、そういった取り組みを積極的に行政からも支援していくというのがこれから必要になってくるんじゃないかなと思います。

仁藤会長

貴重なご助言ありがとうございます。

金子委員

(日本政策)金融公庫には農林の部門もありまして、たまたま昨日京都で農林関係、農政局などいろんな方の報告を聞いている中で、和歌山県は比較的、作付面積が低い割に頑張っている方だということでした。滋賀県は稲作が多いので集落営農組織が進んでいますが、和歌山は、

稲作ではないので全く違う観点で考えなきゃいけない。うち（日本政策金融公庫）の営農部門も認定農業者を増やして、先程山中委員もおっしゃったように稼ぐ力を農家さんにつけてもらうのが一番大事で、副市長さんがおっしゃったとおり、耕作放棄地云々というよりも稼げる農業にするにはどうしていくかっていう意味からすると認定農業者数や戸数がまず増えてるのはプラスに考えてもいいんじゃないかと思います。あとは出荷額とかがどれくらい伸びているのかを縦軸にし、縦軸横軸で全国平均と比べて偏差値的にどうなのか評価しないといけないと思います。当面、増えているってことは国の施策的に見れば「マル」という風にみているのかなと思います。

仁藤会長

ありがとうございます。そういう形で状況をご検討いただくということでお願いします。
他どうでしょうか？

中村委員

今、農業の話で皆さんの、特に副市長のお話を聞いて、この5年が勝負だと、儲かる農業にしないと駄目なんだということはよく分かるし、説得力もあると思います。ただ、ここの会議全体で先程、事務局から報告があった京奈和関空連絡道路で前進があったというのは、すごく重要なことです。確かに農業はこの5年が勝負ですが、市長がおっしゃっているこれだって、10年のプロジェクトだからまだ5年あるということもあるでしょうが、農業は5年を目指して進めるべきですが、もう少し中長期的に決定的に紀の川市の今後について大きな影響を与えらると思われるこの関空連絡道路について、期成同盟会があったり、前進しているんだからこれを評価して、着実にというか飛躍的にでもいいんですが、進める方向でやっていかないと。

さっき観光のところでも言ったんだけど、従来の積み重ねも大切ですが発想の転換というか、画期的なエポックメイキングなやり方をしないといけない部分もある訳で、そういう関空連絡道路っていうのが、これが本当に整備されれば発想自体が変わると思うんだよね。紀の川市をこれからどうもっていくかっていう。

だからそういう意味で市長がおっしゃっている連絡道路の重要性っていうのは市長ほど認識できていないかもしれませんが、非常に重要な話だと思います。だからこれをどうしていくかは大切な話かなと思って報告を聞きました。

仁藤会長

ありがとうございます。基幹産業である農業について皆さんのご意見伺いました。
他にはありますか？

金子委員

全体の中でなんですけど、議案（1）は、26年度の先行型交付金の効果検証なので、これについては先程、仁藤会長さんもおっしゃったとおり出来たものは出来たと評価するのもいいかもしれません。それとこの総合戦略の進捗とは別物にしないとイケないのかなと思います。

先程、大畑委員から28年度は？という話もでたとおり、実はこの総合戦略が成立したのは27年12月なんです。ですから27年の数字をどうこう言えるような話ではないと思うので、これは中間報告で28年が出揃わないと効果検証はできないと思います。

だから今、この数字がいいの、悪いのと言うより、現状はこうですが、28年の実績がでた時点で、総合戦略がどうだったのかという検証は加える必要があると思うし、今回、総合戦略の改訂って言う文言が入ったってことであれば、先程、中村委員から出たような京奈和関空連絡道路についても何らかの指標として活かしていくって言う、指標化出来ないものだから難しいかも知れないですけど。確かにこの総合戦略の中にはちゃんと26ページに京奈和関空連絡道路の整備によるまちづくりと入っていますので、これはやはり重要なものになってくると思うので、今後何かしらこれについて補足説明ではなく、入れてしまってもいいのかもしれない。数字があるものではないけども、最大で重要な施策であるということで今後も市民の方には周知の必要があるのかなということです。結局この総合戦略は5年間で計画を立てて、27年度が第1年度にはなっていますが、出来たのが12月なので、そういうことで数字の検証についてはもうちょっと待った方がいいと思うし、あと今ここで交付金のことに着目していますが、市民向けにはやはり、この戦略がどう動いているのかということをやちゃんと作らないといけないと思います。それから、今のKPIの中には、いくつか先にならないと数字が入らないものがあります。こういうのは、このまま追っかけても、途中途中が見えてこないものがあります。こういうものについては、例えば、私どもの会社でもKPIはKPIで置いているけども管理指標として、サブ的な指標でこれを見ていきましょうと。これが達成しているとKPIにつながっていくでしょうというものを設定して、サブの指標を考えてそれを追っかけていくって言うことも考えた方がいいのかなと思いました。あんまりKPI自体を動かしてしまうとせっかく設定した数値目標が毎年ぶれるというのもおかしなことになると思うので、これはこれであるべき姿で追っかけて、だけでも数字が出てこない、これじゃあわかんないでしょってことで管理指標的なもの考えた方がいいと思いました。

仁藤会長

ありがとうございました。是非そういう貴重なご意見を反映するようにご検討ください。
よろしいですか？では次進ませて下さい。

(3) 地方創生加速化交付金事業について

仁藤会長

次、議題3 地方創生加速化交付金事業についてお願いします。

事務局：企画調整課 楠部

それでは、議案(3)の資料をご覧ください。地方創生加速化交付金事業です。これは国の27年度の交付金で繰り越して28年度に実施している事業です。資料にありますとおり、3事業実施しております。

1ページおめぐりいただいて、まず、「紀の川エリアおもてなし観光サイクリング推進」、これは、和歌山県さんがこの紀の川エリアのサイクリングロードの整備にかなりご尽力され、そのおかげでサイクリストの方に多くきていただいております、24年度には地元サイクリングクラブ、岩出市さん、紀の川市、那賀振興局さん、交通事業者さんで「紀の川エリア観光サイクリング推進協議会」が設立されております。

設立以来、地域の店舗や観光資源を活用したイベントを開催していただいておりますが、この交付金を活用して、さらなる交流人口の増加と地域の活性化を目指すものです。

中段をご覧くださいますと、この事業では①から④までの事業を実施しております。おもてなし店の設置とは、立ち寄っていただいたサイクリストの方にその店舗でなんらかのおもてなしを提供するというものです。またレンタサイクルの拠点は3箇所ありますが、その拠点の整備充実と自転車の購入を行います。また、サイクルイベントの開催。そして、広告活動の実施ということで、皆さま方のお手元にお配りしております「食べちゃえ！紀の川」というマップを作成しています。マップには、サイクリングロードやおもてなし店を掲載しております。この事業の全体事業費としては1,360万円で、岩出市・紀の川市で負担をさせていただいており、那賀振興局さんにはこの事業の事務局ということでご尽力いただいているところです。

続きまして2ページをご覧ください。市内には多数の地域資源がありますが、その情報発信が効率よくできていないこともあり、誘客が進まず地域経済に貢献できていない状況があります。これを打開するには、効果的な情報発信を行い、市の認知度の向上と各資源間の連携を図り、市内周遊型観光のお客を増加させる必要があります。その中には「シティプロモーション戦略」があり、ターゲットを絞って、効率的・効果的に情報が届くような情報発信を行います。このように市の認知度向上と交流人口の増加を図るとともに、青洲の里の再整備を行うための基本構想と基本計画を策定する事業となっています。またこのシティプロモーションでは、次第の右下にあります「住いも甘いも紀の川市」というロゴマークとキャッチコピーを策定しております。今後はいろんなところにこのロゴマークなど活用して市の認知度を上げたいと考えております。あと、この事業の中ではトップセールスとして都市部の市場とか大型スーパー、集客の見込める施設においてJAさんと協力しながら、市場関係者や消費者に対しフルーツのPRを行っています。一枚おめくりいただきまして6次産業化支援事業としまして、トップセールスやアンケートで把握した消費者のニーズを基に農産物の加工品の開発や製造を行う農家さんに対し、創業資金の一部の支援を行うものです。

次に4ページをご覧ください。「ローカルブランディング紀の川市」です。主に国内向けと海外向けの2つの事業を展開しております。まず国内については、農産物販売促進としまして、近畿大学が経営しております近大マグロで有名な近畿大学水産研究所さんにご協力いただき、旬のフルーツを年間6品、1品につき2週間、ご来店のお客様に提供していただいております。フルーツを単にカットしてデザートで出すのではなく、お料理にアレンジしていただいたりしております。そして実際食べられたお客様にアンケート調査を行い、フルーツの食習慣やどんな加工品があれば購入したいかなど伺い、都市部の消費者のニーズを把握しております。

海外につきましては、LCCのピーチアビエーションさんと連携し、訪日外国人の方を対象にアンケートを実施しております。それにつきましてもフルーツの食習慣や加工品のニーズを把握するものです。お手元に資料としてプレスリリース用の資料をお配りしています。また、新聞記事のコピーもつけさせていただいておりますので、また後ほどご覧いただければと思います。加速化交付金事業のご説明は以上となります。

仁藤会長

ありがとうございました。こういう事業が進んでいるということと、また更に発展させてい

くという報告でしたがいかがでしょうか？この方針を促進するためのご助言はありませんか？

大畑委員

先程説明いただいた紀の川のサイクリングロードのことで少し。紀の川市さんと岩出市さんに負担いただき、那賀振興局が事務局をさせていただいております。それで加速化交付金を使いまして、県が和歌山市から橋本市までサイクリングロードを整備し、サイクリングで観光客を誘客したいということで取り組んでおります。

お手元のマップですが、おもてなしスポットは現在50店、エリア内のお店にご協力いただき、サイクリストの方が来てくれたら店独自のサービスでおもてなしをするというものです。本格的なサイクリストの方は、走っているばかりであんまり、立ち寄ってくれないということで、このあたりのフルーツを使ったお店とか古民家のカフェとかたくさんありますので、そういうお店を出来るだけ紹介したいということで、協力店にはのぼりを立てていただき立ち寄っていただけるようにしています。それに関係してレンタサイクル事業もやっていますが、団体客も受け入れられるようにこの資料では15台としていますが、40台購入しています。それで、できたら大阪の方から来ていただいてレンタサイクルでお店巡りをしていただけるようにしたいと考えています。あと、走行イベントですが、9月には、紀の川市でいちじく狩をして、そのあと貴志駅とかに寄って紀の川筋を走っていただきました。もう一回は12月に岩出の旧県議会議事堂をスタートして九度山で真田丸がありましたので、九度山まで自転車で行って、帰りはJR和歌山線で帰っていただきました。このようにJR和歌山線や和歌山電鐵貴志川線の活性化も取り入れながらイベントを開催させていただいております。参加者の半分は県内、県外も半分で非常に好評で広報活動としましてもこういったサイクルマップとかを東京のサイクルモードとか、今度名古屋と大阪でもあるんですが、そういうところで配って出来るだけ多くの方に来ていただけるように取り組んでいるところです。

仁藤会長

ありがとうございました。交付金を上手くつかって活性化を皆さん頑張ってください。
よろしいですか？

中村委員

ちょっと今のサイクリングの話は非常に分かりやすかったですけど、ひとつ教えていただきたいのは、和歌山市内でもヘルメットをかぶったサイクリストが増えていると感じます。

ただ、今もおっしゃるように、このような本格的なサイクリストの方が、地元のお店に立ち寄るってことに結びつくのかなって思うんです。もうひとつ言うと、レンタサイクルの台数を増やすのは分かるんだけど、レンタサイクルに乗る人はお店を訪問してくれると思うんだけど、本格的なサイクリストの方はお店に寄らないんじゃないかって僕は素人で思うんですけど、何か2種類ありますよね？

大畑委員

やっぱり本格的な方は一直線にずっと走っているが、昼食とか途中で寄られることもありま

すが、紀の川エリアは平坦で走りやすいので、出来るだけ素人というか、女性や初心者向けのイベントを組んだりしています。フルーツ狩をしたり、古民家のカフェとかに立ち寄るイベントを開催して、自転車を手段として使ってフルーツ狩をしたりして帰っていただくというような着目しております。

中村委員

そっちの方を重点としてですか？

大畑委員

そこを重点としてやっています。このマップも女性向けに「食べちゃえ！」というように、女性目線で作っています。

仁藤会長

ありがとうございます。そういうことで覚えておきます。

(4) 地方創生推進交付金申請予定事業について

仁藤会長

次に議案（3）地方創生推進交付金申請予定事業についてお願いします。

事務局：企画調整課 楠部

資料の議案（4）をご覧ください。来年度、推進交付金という国の交付金がございます、その申請に向けて2事業を構築しているところです。

まず、ひとつ目がシティプロモーション及び観光客の誘客に資する事業としまして、加速化交付金で策定したシティプロモーション戦略を29年度以降で効果的な情報発信を行うとともにアクションプランを実施して効果的なプロモーションを行います。また、新たな観光組織であるDMOを設立して地域資源を活用した魅力的な観光パッケージの創出等を行い、観光客の誘客を図っていくものです。

また二つ目としまして紀の川市産フルーツの海外への販路開拓及び販売促進に資する事業となります。加速化交付金でピーチさんと連携して訪日外国人の方にアンケート調査を実施したと申し上げましたが、その調査結果に基づいて、フルーツをどこの国に何を輸出すれば売れるのかという海外への販路開拓と販売促進に資する事業を展開し、農業所得の向上と地域経済の活性化につなげたいと考えております。海外でのバイヤーさんとの商談であるとか現地でのイベントの開催等を実施したいと考えております。

また、市といたしまして地方創生に積極的に取り組み、この交付金以外にも活用して、いろいろな事業を展開していけるように情報収集に努めてまいりたいと考えております。

説明は以上です。

仁藤会長

ありがとうございます。

これからの予定、それからさらに枠外に書いてありますが、この地方創生に絡む交付金等に

積極的にアプライ（当てる、申し込む）したいと強い決意をしていただいたんで、逆にわれわれは評価の仕事が増えますけど、ありがたいことだと思います。是非、進めてください。

いかがでしょうか？こういう方針で紀の川市は地方創生交付金に対応していくということです。ご助言等ありましたらお願いしますがよろしいですか？

(5) その他

仁藤会長

それでは、その他になります。皆さん何か会議を通してありませんか？

金子委員

今回、議論の中身が全て地方創生の交付金ということでお金を取りに行くための話になっているのですが、総合戦略は本来そういうのではなくて、1ページに総合戦略の位置づけというのがございます。そんな中で、長計も現在、見直しされていると思いますので、それとこちらとの関係を整合させていかななくてはならないと、こちらの1ページにもそういうことが書いてありますので、次回はそういったことも含み合わせて、長計の委員の皆さんからはこれについてこういう意見があったとかいうのを合わせて進めていくことが必要なのかなと思います。ですから交付金事業はこれで行きましょう。

仁藤会長

ありがとうございます。是非大事だと思うので次の会議に反映していただきたいと思います。よろしいですか？

じゃあ、その他、事務局から何かありますか？

事務局：企画調整課 楠部

今後の予定ですが、先ほどご説明しました加速化交付金につきましては、29年度の4月から5月に効果検証が必要となります。その際に先ほど金子委員さんからもおっしゃっていただいた総合戦略の28年度の実績や長計との整合性、総合戦略記載内容の改訂の必要性の有無など次の審議会で諮らせていただけたらと考えておりますのでよろしくお願いたします。

仁藤会長

ありがとうございます。よろしくお願いたします。

そうしましたら従来、閉会の辞は副会長にお願いしていますが、最初にごあいさついただきましたので、私の任はこれで解かせていただきます。

では、事務局、お願いたします。

司会：企画調整課長 角

仁藤会長、ありがとうございました。

閉会にあたりまして、野村副会長から一言お願いたします。

野村副会長

皆さん、本当に活発な議論ありがとうございます。今後の紀の川市はフルーツというキーワードを主体にですね、来月「ふる博」もありますし、いろんなことが活発に行われて、私も見ているワクワクドキドキするんですが、これを是非いい方向に持って行って、次回効果検証をみっちり出来たらと思いますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

以上